

団体名：フードバンク道央

代表者名：山川 章 設立年月…2008年11月11日

事業規模簿：〇〇万円 ボランティアスタッフ数…5名

取り扱い量：30 t

施設配布先：70 施設（不定期含む述べ 1500 名） 活動地域：千歳市、恵庭市、北広島市、苫小牧市、長沼町、由仁町、札幌市、滝川市、富良野市、新冠町、新ひだか町、浦河町、

事業概要

自宅の倉庫を拠点に 2008 年より千歳市を中心に活動を始める。フードバンク札幌と連携していたが、解散したことにより規模が縮小。現在は、2hj から送られる食品を年に数回（不定期）配布する活動を実施している。

原則として、障がいを持たれながら社会復帰を目指し、一生懸命努力をしている人たちを最優先に、障がい者支援センター（NPO小規模作業所等）、障がい者支援（更生）施設・児童養護施設などの福祉施設へ食品の寄贈を行っている。

ポイント

【定期的な分配・配送を行えるパフォーマンスと施設との連携】

代表の山川さんは、自衛隊のOBであるために、そのOB関係者との繋がりが深く、協力してくれる方は、いるので定期的（毎月1、2回程度）に商品が納品された場合も対応が可能である。

⇒千歳市という主要都市に近い立地で、交通の便がよく施設から取りに来てもらう事も多々ある為、賞味期限が1ヶ月前後の簡便品・嗜好品であれば、タイムラグが短い期間で配布することが可能である。

【千歳市や銀行との協働】

千歳市からは、「千歳市市民公益活動団体」として登録され、また「市民活動支援のための定額自動寄付制度きふ・とも」の団体としても登録されており、市民からこの制度により、微々たる額（数千円）ですが、寄付を受けております。

きふ・ともとは？：定額自動寄付制度「きふ・とも」とは、福祉・教育・環境保全などの分野で社会に貢献している市民活動団体の活性化と寄付文化を育てることを目的に、団体と市民の皆様をつなぐために、北洋銀行千歳中央支店と千歳市が協働企画した新しい形の寄付制度です。

皆さんの身近で社会貢献している団体を100円から応援できます。

取り組みの経緯

2hj の活動をテレビでご覧になり、フードバンクについての理解を深める。第一回フードバンクキャラバンにて出会う。当初はフードバンク北海道と連携しコストコ札幌店から回収し配送をしていたが、現在は行っていない。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動方針

- 資金的に運営が厳しいので、遠くの施設まではなかなか行けないが、遠くの施設の人が商品を受領に来られた時に、その施設近くの3か所分の施設の配送を依頼するなどして、一人でも多くの人に寄贈が出来るように工夫している。
- 障がい者支援センター(NPO小規模作業所、授産施設等)、障がい者支援(更生)施設、東北からの災害避難者(千歳市・恵庭市・北広島市在住)、児童養護施設等、経済的に一番大変なところを最優先に考えながら、可能な限り広範囲にお届け出来るようにしている。
- 私達は、今までどうり出来る範囲の活動を、力を合わせ無理せず楽しみ、そして関わる全ての人に感謝しながら実施して行きたい。

活動事例

● 被災者支援

東日本大震災により被災され避難されてこられた方が千歳市・恵庭市・北広島市に100人前後おられたので、北海道という場所ということもあり民間物資も届かなく、2h j から寄付を受けた飲料水等を市役所や県人会を通じてお届けしていただいた時には、被災者から大変感謝された。

提携食品企業

民間企業からの寄付はなし

⇒

セカンドハーベスト・ジャパン (現状では、年に2, 3回の直送)
ハンズハーベスト (札幌のフードバンク団体)

成果と課題

- 食品が定期的に入ってくれば、自衛隊のOB関係者と活発に連携をし、遠方の地域にも幅広く活動を広げていき、将来的に法人格を取り活動の認知度、配布能力を上げていくが、あくまでボランティアベースで活動費を極力かけず合理的なやり方を模索していきたい。
- 千歳市の福祉委員でもあり福祉について勉強されており、配布先の選定は十分にできている。
- フードバンク道央としては、大口の受け入れと数日での施設配布ができる流れができてきているので、2h j から、積極的に企業から直送可能な案件を増やしていきたい。

今後は、千歳市以外の恵庭市、北広島市及び苫小牧市等に仲間を増やしそれぞれの地元施設の配送をしてもらいたい。(ボランティアのお裾分け)
また、他のフードバンクとの連携を図り、互いに発展できるよう努力したい。